

令和5年度第1回 南丹市地域創生会議 議事録

■日 時：令和5年8月25日（金）午前9時30分～11時50分

■場 所：南丹市役所1号庁舎3F 防災会議室

■出席者

委 員：今西委員、大槻委員、窪田委員、高御堂委員、谷口委員、谷委員、中越委員、
廣戸委員、俣野委員

（欠席：黒田委員）

事務局：市長公室 國府公室長

市長公室企画財政課 井尻課長、片山課長補佐、佐々江主事

■傍 聴：5名

1. 開会（事務局）

■委員交代について報告

【金融分野枠】旧：新委員 → 新：大槻委員

■欠席委員の報告および会議成立確認（設置条例による）

座長（あいさつ）：

第1回地域創生会議に今年度も集まっていたいただき嬉しい。

地域創生について長く続いていることで、熱心に関心を持って取り組んでいる。ひょっとすると終わっていくのかと時々思うが、特にそういうこともなく、形を変えつつ引き続き大事なものとなっている。最近ではデジタル化と、社会の各方面で言われているが、地域創生においてもデジタル田園都市国家構想をしていくと言われている。地域全体をデジタル化しつつ、地域創生をするという話。引き続き地域の各界の力を借りながら、未来の魅力ある地域を作ることが続いていく。熱心に取り組むところと、そうでないところが長年の積み重ねで少しずつ差が出てくる。私たちも本気で取り組む意義のあるものだと思う。そこで皆様方の力を借りたい。具体的には、行政でも知恵を凝らしてアイデアを作っているが、気付かない点や見えていない点があると思う。復習すると、基本的に地域創生は、我が地域がどういものなのか、地域特性を知って、その地域特性を売れる物に変えられないか、観光で人を呼べないか等に変換する。デジタルが入ると、全局面に取り入れていくことになる。

それぞれの各界で気付いていること、新しいプラン、地域の良さを教えてほしい。ひたすらに物に変えたり、人を呼ぶことだけでなく、住みやすく安心して暮らしていける地域にしていく課題材料を見つける、トータルでおこなう会議だと思っている。南丹市は国の交付金をいただいた事業がたくさんあるので、それが意味あるものになっているかを皆様の観点からチェックしてほしい。

今日が第1回目。1年間の計画を教えてください、第2回に交付金事業の評価をする。今日はその

為の全体像を知る。次回は、たくさんの交付金事業の中からぜひこれは、という事業の担当者からヒアリングをする。そのために、どれに決めるかを相談し選ぶ。

引き続き今年もよろしくお願ひしたい。例年のお願ひで、地域創生は行政が頑張ってもらっているが、地域の様々な人たちがそれぞれの立場で取り組んでいくこと。この地域の良さに関心を向けてほしい。

京都府立大学の学生の傍聴者もたくさん来ている。私も引き続き取り組むので、皆様も地域創生関連の取り組みをしてほしい。

2. 議事

■令和4年度評価事業について事務局から説明。

- ・今年度のスケジュールについて
- ・今年度も2回完結スタイルで開催

【第1回】交付金対象事業の概要説明、次回直接担当部署にヒアリング事業の選定、評価確定に向けた評価シートの作成についてのお願ひ

【第2回】担当部署ヒアリング、交付金対象事業評価確定

■「資料1：第2期南丹市地域創生戦略・関連事業に係るKGI・KPI推移」について事務局から説明

- ・資料の見方
- ・「空家活用件数」算出方法の変更について
- ・各項目ごとの傾向

■「資料2：令和4年度地方創生交付金事業評価調書」について事務局から説明

- ・資料の見方
- ・各事業について端的に説明(各1分程度)

■質疑応答・意見交換

委員：

去年1年間の地域創生を全体的にみてどうなのか。コロナ禍の影響も強くあった中での地域創生を全体的に見てどうだったか。人の流れが変わる中で、今後の展望についてどうか。我々はその問題の専門家ではないため、地域がどうなっていくのかという展望を持って取り組む必要がある。皆様の考えを伺いたい。イベントも開けるようになり、観光客も増えてきて元通りになるのか、あるいは違う風になるのか等、今後の展望があると思う。一つ一つの取り組みについての意見、気付いた点を自由に発言してほしい。

事務局に質問で、昨年の取り組みの総括的な評価として地域創生の戦略で、着実に前進したのか、課題が見つかった等はあるのか。コロナ禍のステージが変わる中でどのように捉えているのか。市の方ではどのように捉えているのか、伺いたい。

事務局：

令和4年度は少しコロナ禍から動き出し、経済的な活動も活発になってきたように思う。しかし、観光客が完全に戻ってきていない状況である。シティプロモーションや観光に繋がる取り組みが今後必

要だと思う。4年度の評価になると、コロナの部分はまだ非常に大きく、KGI、KPIの指標を見ても伸びが悪い。

委員：

3年間コロナがあり、その前にしようとしていたことをそのまま復活させることで大丈夫なのか。観光客で溢れかえり京都市内のように観光公害で悩んでいた訳でもないため、積極的にまた沢山の人の来てもらいたいのか。あるいは、万博でたくさん人が来るのでそういう人にも来てほしいのか。コロナでステージが変わっていたが、改めて戻り途中でどうしていくといいのか。意見や感じていることを伺いたい。

昨年の全般的な取り組み、今後の展望、説明があった個別の指標について、交付金事業について、ヒアリング対象の提案、このどれかのテーマ、その他について積極的に発言いただきたい。

委員：

資料1のKPI、KGIについて。令和2年から令和3年に評価の前提の数字が変わっているが、製造業については廃業されたこともなく、企業誘致も積極的な印象。小さいところも含めて、新しく創業もされているので、私の肌感覚では伸びてきていると思う。そのあたりをどう評価されているのか。

目標値が乖離しているものがあり、令和6年度が第2期の最終年度になるので、6年度まで置くのか、実際どこまで狙っていくのかももう一度検証しておいた方がよい。第3期があるとすれば、その時一から考えるのではなく、このような事情があつて達成を大きく上回った、または足りなかった等の評価をする必要がある。数字を踏まえて、各担当課で取り組みの関係で最終どうだったかをみてほしい。コロナ禍の環境の話もあつたので、詳しくは肌感覚で見てもらったらよい。

京都府の観光戦略を見直し、これまで入り込み客数の数を追っていたのをやめた。交流の質、実際に来た人がどのくらい地域の人と交流したか。消費額等、どのくらい滞在いただくのか、そのあたりも京都府全体としても観光戦略やコロナ禍もふまえて価値観、全般を測っている。コロナ禍でこの地域の強味が見えた部分も沢山ある。

人口3万人で維持していこうとおっしゃっている。そのためにも、効果的なことはしっかり。そこが地域創生の主眼なので、どう繋がるのか解明もしながら。目標値をどのように考えているか聞きたい。

事務局：

目標に届かないところがかなりあると思う。あくまで戦略で定めた数値なので、可能な限り近づく事業展開が必要だと思っている。乖離がある部分については、分析をし事業の取り組みの改善を図りたい。

委員：

一般論としてKGI、KPIの数値は南丹だけじゃなくどこの地域も多いかもしれない。社会全体でいい方向に向いている。諸々の事業を加速化できれば良い。一般論としては、そう悪くない。実際、どの市にもそうである。南丹市の良いところとして、たくさん事業をしていて、アイデアを形にしている。全国的な地方創生のお手本になるような取り組みについて、申請すれば国が半額お金を付けてくれる。良いと思えば、周りの地域も真似して普及していく。そういう意味で、言っていた結果に繋がっているのか、想定した狙い通りになったのか、を南丹地域にとってどうだったのか、お手本になりそうか、というような観点から見えていく。

実際問題全国的に見て、先導的な尖ったアイデアだけでなく、過去にも地域にとって大事だと思う

ものについても国が半額みているものがある。それぞれのアイデアが定住人口や関係人口を増やすこと、地域特性を掘り起こして輸出や観光客を増やし、持続可能な地域の基盤づくりになっているかの観点で見てほしい。非常にアイデア豊富でたくさんお金を取ってきていることも特徴で良いことに間違いない。

委員：

近年の観光の状況について。美山の観光は宿泊者数を見ると2019年度並みに戻ってきている。外国の観光客についても戻りつつあるように思う。一点違うところは、今まで台湾、香港からの客が多かったが、欧米やイスラエルからの方も多く、その点が変わってきている。

昨年度、3月末に観光庁が新しく基本計画を出し、3つキーワードを定め、これから3年間進めていく。「地方誘客」、「消費拡大」、「持続可能な観光」、全て南丹市域に関わってくるキーワードである。持続可能な観光、地域のための観光を進めていく。今後シティプロモーションも、と先程事務局から説明があったが、方針をしっかりと定めてどこに向けてどのような方に来てほしいのか、決めていく必要がある。加えて、移住者企業支援やサポートが様々あると思うが、美山町も宿泊やカフェの新設が活発に見受けられる。今まで進めてきた、環境の在り方に賛同してくれる事業者を誘致したい。誰でも来てください、というわけではなく。それぞれの事業の中には示されていないが、この人に来てほしいと示していく必要があると感じる。

移住、定住について、地域で育った方が戻ってこれるような、市もUターンの採用を始めている。私がおし、起業しようとしてもこの施策は受けられない。地元に戻りたい、地元でやっていきたい方への支援も合わせてしてほしい。

委員：

感覚的になると思うが、戻ってこようとする人が以前より増えてきているのか。

委員：

以前から、30代40代の方々は戻ってきている。ご両親が移住者で、美山で育った方が戻って来る印象。

委員：

良いこと。自分たちの子どもにも戻って来てほしいと思うような地域創生を考えよう、とずっと言ってきたので。

委員：

農業をしている立場から言うと、KGIの農業生産額の数字が年々減っている。農業の生産販売額も極端に減っている。京都ブランド、ブランド京野菜、並行して一定の面積が確保できているように書いてあるが、実際は減っているように思う。認定農業者は、一定数確保できている。南丹市が緩めの基準で選定して支援をしていることもある。ただ、売上数が減っているということは、将来的に所得には繋がらないことを示している。これが気になった。まだまだ、朝倉山椒でもそうだが、事業の金額が少ない。どんどん下がっていくのではないかな。

先月、和歌山の田辺市に視察に行ってきた。後継者に繋ぐとのことで。売上高がお米が数億、梅が131億ある。桁違いに大きい。この辺りでも、山間地の山際で山椒など品目を推進することで10億

程狙えるのではないかと思います。早めに手を打っていかないと、農地が荒れていく。美山に観光に来ていただいても、農地も山も荒れていると、持続的な観光地になっていかないと思う。次の世代が地域に残っていく足場がない。売上品目を積み上げることで足場を作らないと、地域の定住者が増えていかないと思う。

委員：

今日、話題になった特産品の山椒や柚子。値段的にもっと高いけるのか。ブランド力を高めて値段が上がるのか、もう少しの伸びしろなのか。

委員：

兵庫県や和歌山と比べると、栽培面積が少なく、産出量も少ない。ブランド化になりにくい。他府県からすると、京都というブランド名があるだけで売れると羨ましがられている。実際は、現場で特産化に繋がっていないのは大きな問題ではないかと思う。

委員：

東日本の電車等の広告に山椒や柚子を映したり、ふるさと納税の品にありがたみを押し出す等、もう少しブランド化もできるのではないか。あるいはそもそも作付面積を増やせるなら増やすべきだということ。

後継者育成も、10年20年取り組んできて引き続き今の方法でいけるのか、法人化した方がいいのか。そうしないと新規就農者が増えないのかなと思う。そのあたりはどうか。

委員：

こちらで分けるの難しい。法人化して働きたい新規就農者もいるし、独立でいたい人もいる。ただ南丹地域、丹波地域は山間地が多いので、大規模な面積拡大の農業は難しい。観光を含めた総合的に地域の魅力を上げていく中での農業であれば、大規模農業を展開するのではなく、暮らし方の延長としての農業を目指す必要があるのかなと思う。そうすると細かく事業を打っていかないと、育っていかないと思う。

委員：

私も牧場を経営している。後継者について考えたり、円安で飼料が高騰していて交付金をいただき、なんとかやっている。後継者に繋ぐという中で、牧場を始めた頃から食育の牧場体験を通じて小さい時から食の命の部分について体験してもらうことで、先の長い話だが、身をもって体験し子ども達に農業の大切さを知ってほしい。京都では農芸高校もあるが、個人の牧場は少ない。コロナの関係で体験も減った。1年に千人は来てくれていたがそれも減っていつている。田を保つ面で飼料米を作ってみたりしている。

委員：

体験が大事だと思う。南丹は特徴として京都市内から来やすい。学校単位での体験や個人単位での体験も行きやすいと思う。

委員：

たくさん来てほしいし、一生懸命に伝えたい。しかし、一気にとなると毎日100頭以上の牛を世話しているの、別メニューですることになる。

委員：

アルバイトで学生を受け入れることは難しいか。

委員：

そんなものもある。中学校の職場体験も受け入れている。中学校へ行って、食育の出前講座をした。小学校の高学年か小学生の間に体験してほしい。

委員：

資料1、基本目標2の(2)市のホームページ観光マップアクセス数について、URLは何のマップか知りたい。

委員：

いくつかのマップが出てくる。南丹市観光マップと検索して出てきたものを見た。

委員：

私も思っていたページと違っていた。このURLはマップのものではないのではないか。何で数値を取ったのか。何を計りたいのかと思って。

委員：

リニューアルされたものではなかったか。

委員：

そうかなと思ったが違った。リニューアルされた方ではない方を取る理由があるのかな、と。2019から2020で落ちているのは南丹市がホームページをリニューアルされたので。落ちない方法もあるが、恐らくそれはされなかったと思う。

委員：

これが何なのかについてはまた確認させてもらう。次、働き方関係ではいかがでしょうか。

委員：

私のところはバス会社で、コロナ禍前に比べて戻りきっていない状況。概ね8、9割。引き下げになってから改善傾向にあるが、大きな問題は要員不足。トラック関係でも2040年問題。どこの産業でも人手不足になると言われている。バスの運転手も同様で、若い方々が普通免許も取らない、そのうえ大型二種免許を所持しているのは、ここ20年で半分に減っている。二種免許保持者は高齢化している状況。南丹市において、JRの本数が減っている。バスも園部から福知山方面も撤退になる。ここの中にある、デマンドバス。1年間の利用人数にかかる経費が非常に大きい。交通の空白地を作らないように、利用促進に至るまでに力を入れて守るべきである。バスや電車が走らないところに、どうし

て町の活性化が進むのか。衰退すると思う。基本目標の3が伸びることに応じて、全てに影響がある。

委員：

観光バスと路線バスでは状況が違うと思うが、全国的な地方創生では貨客混載バスとか多機能化している。運転手不足の中で高齢化も進んでいると、余り無茶は言えない。

委員：

ヤマトさんと地方のバス会社など。九州に一度視察に行ったが、地理的な部分で、谷ばかりのところについては、効果的であるといわれている。

委員：

せっかく子どもの通学バスもしているの。

委員：

ドライバーが少ないので、連結も視野に。トラックもそうなるみたいで。1人のドライバーが2台を繋げる。

委員：

運転手自身は新しい取り組みとなる。高齢の方も増えているが。

委員：

年齢層が高くなっていて、労働基準のバス運転手基準の改正が来年の4月にある。拘束時間等が短くなり、インターバル時間をたくさん取る。そうすると、より人が必要になる。働き方が楽になるのはいいことだが、人が少ない状況でそれに対応しきれんのか、大きな問題。高齢者運転手が増えているので、働く時間を短く休憩時間が長い労働条件を求める声が多い。それに向かい企業とも交渉し、様々な改革を図っているところで、なかなか実現が難しい。

委員：

他の地域、宇治田原町では市営バスを子どもにラッピングさせたり、「バスに親しむ日」がある。通学に使っていないからか、それくらいしないと、大人になってバスに乗る時に戸惑うからなのか。クリスマスになれば、保育園児がクリスマス仕様にバスを飾り、七夕には七夕の飾りをしてバスへの関心を持つ機会が作られている。

委員：

南丹市では、八木町の幼稚園の子が描いた絵を車内に飾って保護者と園児に乗って見てもらう取組が過去にあった。神吉行きバスの利用促進が目的だった。

委員：

南丹では子どもが通学でバスに乗っているが、主体的に関わるような、運転席に乗れる機会を作ったりして、もう少し愛着をわかすという事も必要。走行中に立ち動かないようになる等、バスへの親しみを増やして、運転手も増えたらと思う。

融資の相談に来られる方もいると思う。銀行の関係で、気付いた点もあると思うが南丹の地域でどうか。

委員：

窓口で口座開設の方もいるが、最近は美山で飲食関係で起業すると開設に来られる方が目立っている。観光と言えば美山かなと思うが、このKGIの指数の中で観光入込客数の数字を見ても、コロナ禍でも健闘しているように思う。南丹市の中でも日吉や八木も観光地だと思うが、どの地域が増えた等の内訳が分かれば知りたい。

先月も美山で古民家を利用した宿泊施設が数個できたが、従業員の確保が難しいと聞く。宿泊施設ができる反面、働き手の確保も必要だと感じている。

委員：

美山の入込客数、2021年は56万2956人ぐらい。

委員：

入込客数になると、道の駅がすごい数になる。園部やスプリングスひよし、るり溪。隣町の京丹波町の道の駅は300万人とかになる。あまり意味のない数字。もう少し、評価の方法を変えてもいいと思う。

担い手の話は結構重要。丹後の方でも高校生がアルバイトをしていることが結構ある。深刻な問題。この辺りは、京都府観光連盟と力を入れて考えていこうとしている。

委員：

北部の宿でインターンや無給のバイトも意味があると思う。連携や取り組みでご理解いただければ。

委員：

2ー7に関連するかと思う。園部駅以南に限って、京都建築大学校でJR嵯峨野線の紹介マップを作成した。冊子の内容は京都駅から園部駅の全ての駅の紹介と、周辺の飲食店の紹介。駅舎の外観や飲食店の外観を、学生がスケッチして紹介する内容。目的は、スケッチ力のスキルアップ。学生がそれぞれに取材をした。こんなところがあるのか、というところを見つけていて、学生の目線も大事だと思った。電車を降りてからの、交通手段がもう少しあれば行動範囲が増えるのかなという感想が。

今年度は南丹市版を考えている。バス路線のバス停を回って周辺の名所をスケッチで紹介できればと考えている。

もう1つ、1ー7ものづくりのまちに関して、伝統工芸大学校があり毎年学園祭をしている。今年10月に開催予定。コロナの規制の緩和で一般参加も可能。陶芸体験もできるので、まずは体験をしてもらうことが大事だと思っている。

委員：

交通が便利になり、駅直結になっている。学生も増え質が上がる。下宿生が減るのでは、との心配もあったが、関わりを持っていただけて嬉しい。

日々通っている、先生や学生、職員の方の力を借りたい。こんなサポートがあれば、というのを、この場でも別の場でも言っていただきたい。バス停を辿ってというのも、素晴らしいことだと思う。車を借り

ればなんとかなり、免許がある学生ならすぐ行けるが。京都市内を歩いていると、立命館大学の駐車場に、学生が乗ってその地域に行き来できるように使える軽トラがあった。学生の立場からすると、そのようなものがあれば便利なのかもしれないと思った。鉄道やバスで入って来ていると、もっと利用していきたい、となるので取っ掛かりとしては良いと思う。

市役所には誰でも利用できる車とかはないのか。10年以上前に電話回線がなく困っている人に、貸すというのがあった。事業評価でそれは要らないと言われた覚えがある。ホームセンターにも運ぶための車の貸出があるので、今のところはないとのこと。

今後で言えば、デジタル化は南丹市では課題等はどうなのか。確実に次の第3次の戦略があるか分からない。出てくると、デジタル田園都市国家構想と地方創生を引っ付けてることを今から考えておいた方がいいので、何かあれば聞きたい。基本は都市を離れて田園の方でも、手続きはデジタルで町と同じように便利にできる。世界とすぐに繋がって、情報を得られて発信もできるとなれば、来る人も多だろうと想定。

引き続きこの一つ一つを取組でも、今後の展望を聞くのでも。その先にロジカルにこの事業のヒアリングするかは分からないが、このような話を聞きたい等あるか。

委員：

デジタル化の話で、KCN なんてんではテレビインターネットの業務が今まで主だったが、今回地域プロモーション課を作った。これから、どのようなことをしたらいいのか考える中で、南丹市内がうちのエリアであり、どれだけ客を増やしても、南丹市の住人以上は顧客獲得数に難がある。広域のものではないため、企業としてどうあるべきかを考えた時に、先程もあったが、地域の活性化でUターンや定住。それでいずれこちらにも客が返ってくるという発想で、地域を活性化しない限り企業は伸びないと思う。全てが売上になるものばかりではないが、地域貢献することで自分たちの元に返ってくる発想で課ができた。通信だけでなく、先程出していた農業やバスの問題が上手くいく提案も。うちだけでなく、別の企業の紹介や一緒にするイメージを持っている。

バスの話で言えば、例えば、診療所などで遠いところに処方箋を運べないご高齢者がいる場合に、空のドローンや地上の宅配もある。個人情報などもあるが、それをバスに乗せてはどうか。個人情報のものはいろいろあると思うが、それを、IT で何か解消できないか等のコラボ、農業面では、京都府も水の管理を人が見ていなくてもできる方法が実施されていた。色んな分野が混ざって、一緒にできるのではないかと。観光で記事を出したからといっていきなり客が来るわけではない。詳しく知らないが、1つの部署だけで完結するのは勿体無いと思う。実施内容を効果的に広める役目を担う。単発ではなく、連携して広報や繋ぐ人間がいた方が効果がでるのではないかとと思う。

観光面で、デジタルサイネージ等外に出す際にどの方法が効果があったのか、数字があれば分かりやすい。響かなかったものと、そうでないものを知り、効果のあるものを出して、そうでないものは変えていくやり方もありだと思う。

委員：

広告の効果は言ってきた。何を見て来たか聞くのが一般的だと思う。デジタルサイネージを見て来てもらうにはどんな打ち方がいいのか。または、理論的な形で、まず、南丹市の存在を知らないと来ないのか。何か、映えスポットのようなものがあれば来るのか。どのような戦略を持っているのか。

事務局：

答えを持ち合わせておらず、申し訳ない。各事業担当課で効果の測定を取っていると思う。

委員：

有識者から見ると、こうしてはどうか、とのアイデアを伝える必要があるのかなと思っている。知名度を上げる、誘客する等の発信はどこでもされている。報道されるレベルで目に付くものとして、とにかく知名度を上げるとすれば、例えば、市長や町長が先頭に立ち、少しどうなのかと思うような YouTube 動画を作成している町がある。移住し、子育てしてくれる方に現金100万円をポケットから渡して、町長が逮捕され、取り調べで、ただ町を良くしたかっただけ、と言っている動画を作成した。私個人としては、悪いイメージが付くので悪ふざけの類に思える。こんなことをしている、とニュースになり知られるようになった。

SNS グループでは、絶景プロデューサーのような謎めいた仕事も世の中にはある。そういう方の手を借りて地域の絶景を見出してプッシュしていく方法もある。私達も何か、地域らしい、上品な方向でいきたい。デジタルサイネージも、どのようなものを出すか。一般的なものでは、かやぶきの日本のふるさとの要素。もっと何を見せると良いのか。

委員：

戦略は観光交流室で作っている途中だと思うが、シティプロモーションは秘書広報課、山陰本線は地域振興課、観光は観光交流室とバラバラなので。関係はしているけど、連携はしていない。多分、連携事業ではないので。それが、一つの課に集約されるのか、一つの軸を持って傘下に置かれるのか。なかなか相乗効果が得られないように思う。今後、この資料を頂戴する機会があれば(3)の成果と今後の方向性のところには効果検証を加えてほしい。売上、金額について記載が限られた事業になっている。事業をしてどのくらい儲けが出たのか、結局お金がないとできないことがある。経済的な効果がどのくらいなのか指標を加えてほしい。

委員：

資料を作れないとのことで妥協しながらしてきた。来年は全体を振り返る時期に入るので、効果や振り返りの項目を増やすし、数字をみってみる。私たちも全体を振り返って次はどうかということを行う必要がある。この資料も慣れてきたと思うのでもう一步踏み込んでほしい。

二人からのご意見で、いくつかの観光や山陰線の呼び込み。蛸壺化、縦割りとはまでは言わないが、調整機能が弱いとの指摘もあったように思う。戦略や答えが見えていて、どう頑張るのかという段階であれば別々でも良い。コロナのステージも変わり、デジタル化と言っている中で答えを模索している段階だと、もう少し調整が必要。単純に各課が集まって交流するだけでは困る。委員会やプロジェクトを作って、外部の力もあった方がいいのかもしれない。この瞬間ですぐ答えはないが、単年分野でバラバラにしていることを考え直してもいいのではないかと、との指摘をいただいている。

委員：

プロジェクト化がいいと思う。学生や、これから働く人が入ると盛り上がると思う。

委員：

緩やかにするなら、勉強や研究の側面を出してもいい。念入りにするなら、市役所の本部にも、と

なると思う。バラバラであったり、外注で人任せになっていると勿体無い。コロナで変わりつつある中で、狙っていないと勿体無い。

委員：

今まで議論されていない中で、4-3健康づくり推進事業。非常に大きな事業費を使っていて3年目になる。ヒアリング対象としてどうか。

明治国際医療大学が提唱されているが、東洋医学は医療だけでなく、季節を感じながらこの地域の食や、体験、農業も含めて、住んでいる人が元々持っていた季節の暮らしの知恵を活かすのが養生の考え方。

お店も旬の物を出しておられるので、季節に沿った食の意味や効果をお客様へ説明できるよう、地域の事業者に広がりのある形で広めていきたい。

ここは、歩くことに重点をおいている。それも重要だが、もう少しトータルにいけるといい。商工会との関わりで経済効果も出している。これ自体もICTなので、もう少しカスタマイズする等、大きな方向性として、デジタル化もキーワードなので、健康分野でもどうかと一つ提案を。

委員：

賛成。私も健康ポイントをしている。この紹介ビデオを作るきっかけがあり、そこで理解した。参加している人はよく分かるが、なかなか広まりにくい性質があると思う。良いことをどのように広めるのかを含めて話せるといい。

委員：

デジタル化一般でどこかに来てもらうのは難しいので、保健医療ならその課に来てもらってそのことに特化してもらう。

委員：

ヒアリングできるのなら、定住促進に関する地域振興課の方から話を伺いたい。空き家バンクの登録も増えていて、2-2、2-3が当てはまると思う。先程も美山で開業が増えたとの話もあった。開業したいから空き家を買うのか、どのような目的で相談されるのか聞きたい。

委員：

空き家バンクの登録が進むことはありがたい。京都府でも条例を作って進める、なかなか進まないと聞いているが、その中で進むのはありがたい。誰がどうするか。

委員：

空き家は売れて良いが、美山で起こっているのは、買うが住まず転売される。そうになると、地域創生にはならないケースがあるので、詳細が伺いたい。

委員：

話題がヒアリングに入っていないので、これというものがあれば。

委員：

先程もあったが、担い手やそのあたりがぶら下がる事業がダイレクトにないので。

委員：

農業の担い手等、何かないか。今年度はそこまでダイレクトなものがない、ということ。

二つで良ければ、後は皆さんに書類を見てもらって大体の評価ができるのであれば。2チームに来てもらって、じっくり話を伺うのも良いと思う。異論が無ければ2つでも。

小学校の跡地に関して二系統あったと思うが、全部に対して出しているのと、四つを選んでいるのとあるのか。

事務局：

全部ではなく、2パターンあって、地域活性化センターとして出しているものと、地域活性化センターでない小学校跡地に出しているものと二種類。

委員：

地域活性化センターでない方は、一定年月を決めて、とあるがいつまで。

事務局：

令和6年度、来年度までが一区切りになる。

委員：

地域活性化センターになると何が違うのか。

事務局：

地域活性化センターは、市の指定管理になる。地元の団体、振興会に指定管理を受けてもらう。収益で地域のイベントをされたりしている。

委員：

来年度で打ち切って、活性化センターではないところに市としてなにかされる予定はあるのか。

事務局：

今後の地元との話合いで、とのことで、明確な方針はまだ何も出ていない。

委員：

ドローンやデジタル田園都市国家構想に力を入れている。ドローンを自由に飛ばせるようなドローンフィールド、家の近所で飛ばすのは難しい。小学校の跡地には大体グラウンドがあるので、そういったことで使えたりしないのか、と思う。射撃場や乗馬場のような類で。家の前では容認できないようなもので。法律上でも駄目で、近所の関係でも駄目。そういった面で、ドローン場とかにできたらという思いがある。

委員：

旧川辺小学校を拠点に京都府の企業が今まで教室をしていて、これから実験フィールドとして使用したい、と地域の方に伺っている段階。物資輸送ができるドローンでガソリンタイプ。実証実験を予定している。西日本では他にできるところがない。

委員：

日本郵便も力を入れていると聞いた。そういった取り組みを広めるためには、子どもが好きにドローンを触れるところがほしいと言っている。

委員：

山陰本線の課題で、この広告宣伝事業に繋げる。先程、建築大学校の取り組みのようにマッチさせながら、地域の方がそこに行きたいと思ってもらえる情報を出して乗ってもらう。地域の方が望む必要もあるので、どのような方向に持っていくかが問題だと考える。

委員：

観光発信の担当に来てもらう。そろそろ案を絞りたい。健康づくりは、これまでの話題で1度取り上げることでよしいか。一つ健康づくり。後、一つか二つ。今おっしゃった内容は、課が1つだとしやすい。

委員：

意識は2-7で言った。

委員：

2-7は地域振興課。

委員：

実際に住んでももらうための条件整備もあると思う。

委員：

2人からあった、定住に関心を持って、地域振興課に来てもらって、その事業について尋ねる。地域振興課は全部をするのは大変だと思うが、2は全て地域振興課。それと、山陰本線南丹市広告宣伝事業について、聞きたい。他に入れるとなると、4にもあるが、これらは主たる候補とせず、2をメインに。その場で聞いて知っていれば、答えてくれるかもしれない。

では、その2つ。健康づくり推進事業で、保健医療課。地域振興課に2-1、2、3、4、7を中心に聞きたい。4についても聞くかもしれないが、分かる範囲でと言ってもらえればと思う。いかがでしょうか。

それでは、まだまだ議論も尽きないかと思うが、様々な示唆だけけて、ありがたい。次回に向けてどんなことするのかについて、事務局からお話をいただきたい。

事務局：

本日説明した、各事業については次回の会議に向けて依頼があるため説明する。

事務局：

本日配布している事業評価シートについて、各事業ごとに評価とその理由を記載する欄がある。評価の例で、表に記入例①、②と記載している。評価の欄に、一番下にある評価欄選択肢から数字を選び記載願いたい。可能であれば、理由についても記入願いたい。質問があれば質問でも構わない。担当課に向けてのメッセージでも良いと思う。シートの提出は9月19日まで。それを取りまとめ、次回に資料として配布を予定している。メール、紙媒体どちらでも良いので事務局までの提出をお願いしたい。

委員：

私たちの会議体として、それぞれの事業について評価をおこなうという趣旨。国に連絡し、ちゃんとお金を使ったこと、ヒントになるものを集めたいと国側は言われている。現場に行つて専門家が調べれば良いのだが、そうもいかない中で、日々南丹に居住や仕事をしている方の知恵を借りて評価したい。最終的には、一般論でも多数決でもないが、大勢に従う。それでも違う、と思う方には、弁を振るって、ひっくり返そうとしてもらう。

ヒアリングしない多くの事業の担当課については、このシートだけが唯一外部の評価を見る機会になる。評価の理由だけでなく、気付いた点やアイデアも記入いただけると嬉しいと思う。

今回は、ヒアリングの後、この表を1事業ずつ特定していく。

3. その他

■事務局からの連絡事項

- ・インターバルにおける評価シート作成・提出の説明
- ・9月19日までにヒアリングシートの提出

■次回日程調整

- ・10月13日(金) 9時30分～

4. 閉会

座長：

本日も長時間に渡りお世話になった。次回に向けてまず、事業評価シートを提出。その後、10月13日に、これにて令和5年第1回南丹地域創生会議を終了する。